

取扱説明書

このたびはDXアンテナ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。

DXアンテナの製品を正しく理解し、ご使用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。

DXアンテナ

2K4K8K **高シールド**

CS/BS-IF・CATVブースター(屋内屋外共用)

CATV上り 10~60MHz・下り 70~962・CS/BS-IF 1030~3224MHz 増幅用
CATV上り カット/増幅スイッチ 電源/増幅部内蔵・分離共用形

CW30SG

CATV下り 70~962・CS/BS-IF 1030~3224MHz 増幅用
CATV上り カット/パス スイッチ 電源/増幅部内蔵・分離共用形

CF30SG

新4K8K衛星放送に対応
すべての2K・4K・8K放送(3224MHz)に対応しています。

本製品はCATV下り962MHzに対応しています



お取扱いの前に

- テレビ受信工事には技術と経験が必要です。お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。
- F形接線の接続は、接続ナットを2N・mで締め付けてください。(締め付けの過不足は故障や障害の原因となります)
- 電源分離で使用する場合は、必ず屋内が防水・防雨ならびに放熱処理を施した収容箱などに収容してください。
- 電源分離で使用する場合、増幅部と電源部を結ぶ同軸ケーブルに電流が流れます。途中に通電形機器以外は絶対に挿入しないでください。また同軸ケーブルの先端加工は心線と編組が接触しないよう注意して行なってください。火災や感電の原因となります。
- この製品を落としたり、ぶついたり、無理な力を加えることのないよう注意してください。
- 電源部(PSH23S)は、この製品の増幅部以外には使用しないでください。
- 電源供給は、すべての同軸ケーブルが完全に接続されていることを確認した後、行なってください。
- CS/BS入力端子からは、DC15Vが出力されます。CS/BSアンテナを接続する場合は、同軸ケーブルの心線と編組が接触していないか確認してから行なってください。
- 使用時、異常が生じた場合は、ただちに電源の供給を止め、原因を確かめてください。
- すべての放送(2K・4K・8K)を見るためには、3224MHzまで対応した同軸ケーブルや4K・8K対応のBS・110度CSアンテナなどの機器が必要です。
- 本製品はCW30L3CH、CF30L2CHからの取換えが可能です。

安全上のご注意

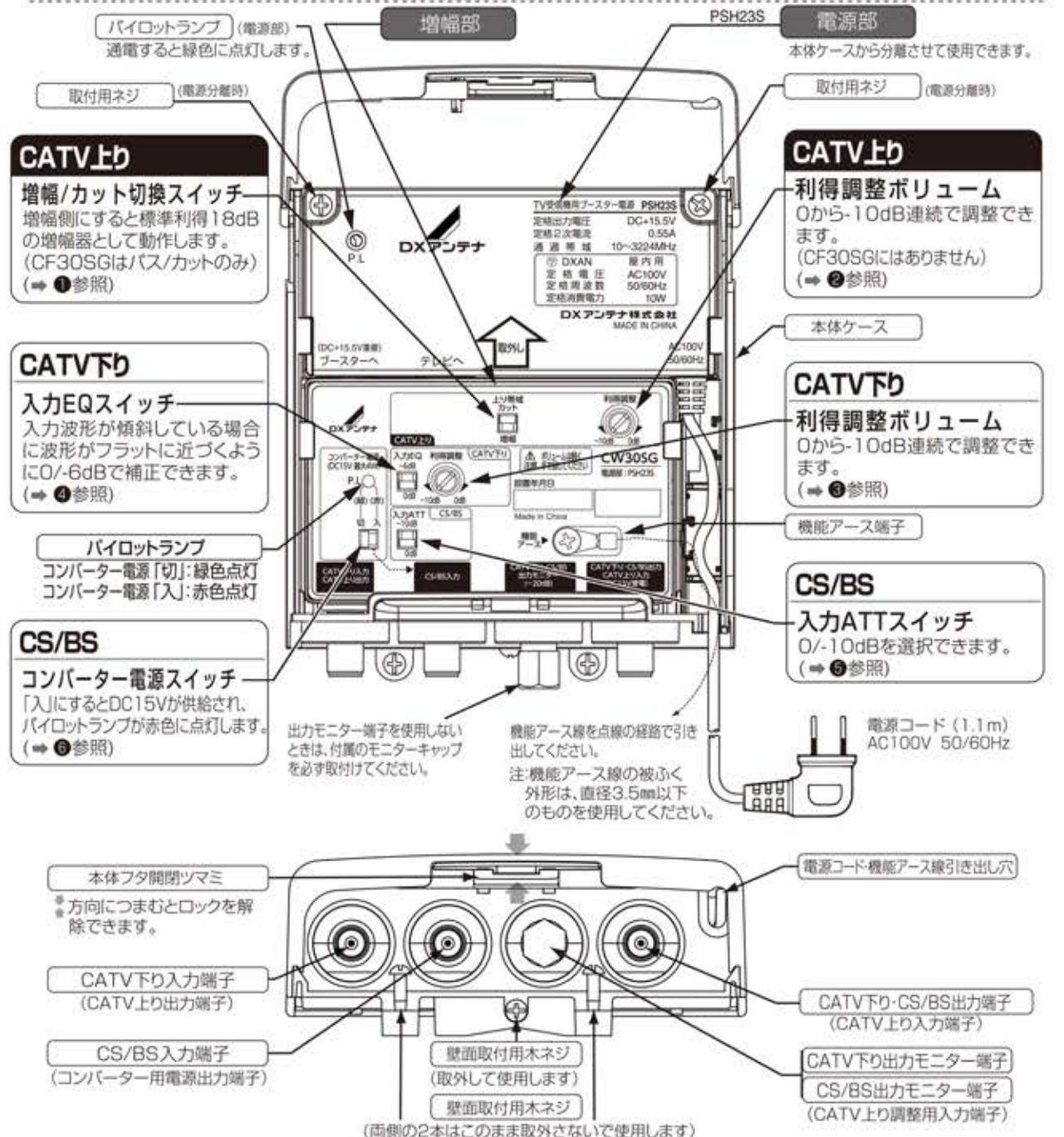
お使いになる方や他の人々への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。

	一般的な注意事項		機器の分解禁止		接触禁止		一般的な禁止事項		指示を守る
--	----------	--	---------	--	------	--	----------	--	-------

各部の名称

※各スイッチおよびボリュームは調整用小形ドライバーで軽く操作してください。強く回すとボリュームが破損する恐れがあります。※各スイッチは「カチッ」となるまで動かしてください。※BS・110度CS4K・8K放送(3224MHz)のレベル確認の際は4K・8K放送に対応したケーブル・コネクタを使用してください。

CATV上り…加入者側からケーブルテレビ事業者に送られる出力信号のことです。 **CATV下り**…ケーブル事業者側から加入者に送られる入力信号のことです。



1 CATV上り増幅/カット切換スイッチの操作

- CW30SG: 増幅側にスライドさせると標準利得18dBのブースターとして動作します。
- CF30SG: パス側にスライドさせるとCATV上り帯域が通過(挿入損失0~-5dB)します。
- CATV上り帯域を使用しない時は、CATV上り帯域スイッチをカット側に切り換えてください。CATV上り帯域が衰減します。
- ※出荷時の設定はカット側になっています。

2 利得調整ボリュームの操作

- 利得調整ボリュームは反時計方向いっぱいまで回した時、減衰量最大となります。出力端子にスペクトラムアナライザー(電界強度測定器など)を接続し、このボリュームにより所定のレベルに合わせてください。
- ※出荷時の設定は-10dBとなっています。
- ※利得調整ボリュームは調整用ドライバーで軽く回してください。強く回すとボリュームが破損する恐れがあります。

警告

この内容を見ずして、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない
火災や感電の原因となります。



電源コードを傷つけたり、破損させたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったりしない
また、重いものをせたり、加熱したり(熱器具に近づける)、引っ張ったりしない
火災や感電の原因となります。電源コードが傷んだとき(心線の露出、断線など)はお買い上げの販売店・工事店にご相談ください。



同軸ケーブルには電流が流れますので、途中には通電形機器以外は絶対に挿入しない
通電形機器を挿入する場合は通電端子をよく確かめてお使いください。もし、非通電形機器を挿入しますと、回路やケーブルがショートして、火災や感電の原因となります。



増幅部と電源部を接続する同軸ケーブルには電流が流れますので、同軸ケーブルの接続や接合加工などで、心線と編組線が接触したり、同軸ケーブルに傷ついたりしない
火災や感電の原因となります。



製品内部に水が入ったり、めれたりしないようにカバーを正しく閉め、また、接続する同軸ケーブルには防水キャップを正しく取付ける
万一、内部に水などが入った場合は、まずこの製品の電源プラグをコンセントから抜き、この製品に接続している電気製品の電源を切り、電源プラグを抜いて、管轄のケーブルテレビ事業者にご連絡ください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜く
電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災や感電の原因となります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となります。



雷が鳴り出したら、製品には触れない
感電の原因となります。



煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用しない
火災や感電の原因となります。すぐに、ブースター電源部の電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店・工事店に修理をご相談ください。



接地する
引っ張り強さ 0.39N 以上の金属線、または直径1.6 mmの軟銅線で接地してください。接地しないと避雷やシールドの効果が下がり、感電や故障の原因となります。



取付けネジや接線の締め付け力(トルク)に指定がある場合は、その力(トルク)で締め付け、固定する
落ちたり、破損したりして、けがの原因となります。



製品を分解・改造しない
感電やけがの原因となります。また、製品の性能が維持できなくなり、故障の原因となります。



電源プラグは、コンセントの根元までしっかりと差し込む
ゴミやほこりが付着しているときは拭き取ってください。火災の原因となります。



電源内蔵で屋外設置する場合は、電源部のACコードに水がかからない軒下や家屋の側壁などに設置してください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



注意

この内容を見ずして、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

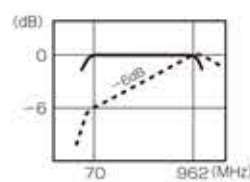
AMラジオから1.5m以上離して使用する

AMラジオの近くで使用するとラジオ音声にノイズが入る場合があります。



4 CATV下り入力EQスイッチ(70MHz値)の操作

- CATV下り入力EQ(70MHz値)スイッチを-6dB側にスライドさせると962MHzを基準にして70MHzの利得が-6dB減衰します。
- ※出荷時の設定は-6dBとなっています。



5 CS/BS入力ATTスイッチの操作

- CS/BS入力ATTスイッチを-10dB側にすると1030~3224MHzがフラットに10dB減衰します。
- ※出荷時の設定は-10dBとなっています。



6 CS/BSコンバーター電源スイッチの操作

- この製品からCS/BSコンバーター用電源(DC15V最大4W)を供給する場合は、コンバーター電源スイッチを「入」にしてください。
- CS/BSコンバーターを動作させるための重畳電源を供給できる端子はCS/BS入力端子のみです。
- 電源の供給はCS/BSコンバーターへのケーブルの接続を確認した後に行なってください。
- 重畳ラインに接続する機器は必ず通電形をご使用ください。
- CS/BSコンバーターを重畳電源で動作させる以外の場合に通電しますと故障の原因となりますのでご注意ください。



接続方法

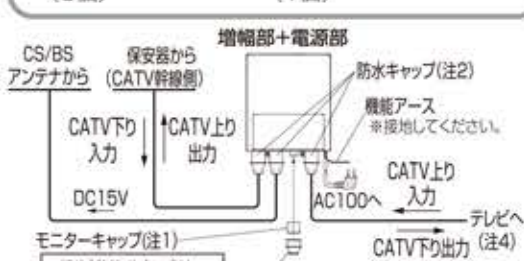
接続方法は、電源内蔵で設置する場合と電源を分離して設置する場合の2通りがあります。屋外に設置する場合は、電源部のACコードに水がかからない軒下や家屋の側壁などに設置してください。

下記の付属の防水キャップはケーブルを接続した後、各端子部分に必ず差し込んでください。



<電源内蔵で使用する場合>

- 本体ケースに電源内蔵で使用する場合は、屋外でも使用することができます。
- 屋外に設置する場合は、電源部のACコードに水がかからない軒下や家屋の側壁などに設置してください。
- 使用しない端子には、モニターキャップ(付属品)と防水キャップ(注2)を必ず取付けてください。

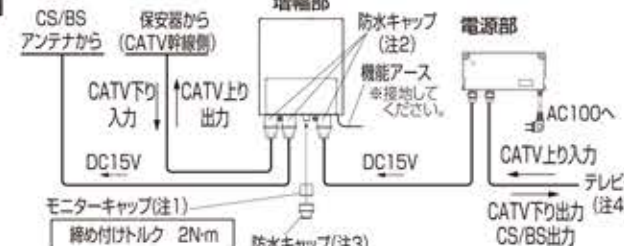
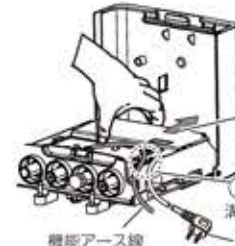


<電源分離で使用する場合>

- 下記①②の手順で電源部を取外してください。

注意
電源分離で使用する場合は、電源部は屋内に取付けてください。

- 電源コードを清からす。
※機能アース線を接続している場合は、機能アース線を元の溝に戻してください。
- 電源部を矢印の方向(○)へスライドさせて取外す。



- 注1) 出力モニター端子を使用後は、モニターキャップを元通りに取付けてください。モニターキャップ締め付けトルク 2N・m
- 注2) 注3) 防水キャップは、カチッと止まる所まで差し込んでください。
- 注4) 下りCS/BS出力端子に接続した機器(テレビ、ブルーレイレコーダー等)はCS/BSアンテナ電源を「供給しない」または「OFF」に設定してください。